



令和4年2月1日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（1月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

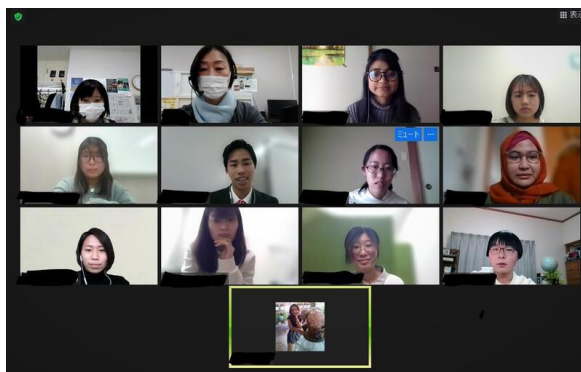
宮崎大学最近のトピックス（令和4年1月分）

1. 留学に興味のある学生等と在住外国人材をつなぐ「宮崎大学国際人材プロジェクト×MOP（Miyazaki Oasis Project）日本語オンライン交流会」を開催
2. 宮崎県立宮崎病院が宮崎大学医学部附属病院に特別功労賞を授与
3. 女子トイレに生理用品を設置 ～生理にともなう様々な負担に悩む学生を支援～
4. 大学発ベンチャー企業・MabGenesis 社がアニマルヘルス分野のグローバルリーダー：ベーリンガーインゲルハイム社（ドイツ）と共同研究開発契約を締結
5. 医学部附属病院で“網膜色素変性に対する遺伝子治療”の医師主導治験を実施

1. 留学に興味のある学生等と在住外国人材をつなぐ「宮崎大学国際人材プロジェクト×MOP (Miyazaki Oasis Project) 日本語オンライン交流会」を開催

令和3年12月26日(日)、「日本語オンライン交流会」を実施し、外国人8名、日本人13名が参加した。

本交流会は、本学で学び、今後留学を予定している学生や留学に興味を持つ学生と、宮崎県内に住む外国人を繋いで、その出会いにより宮崎県における多文化共生社会の実現を目的としたもので、本学で活躍する



” Miyazaki Oasis Project ”ミヤザキ オアシス プロジェクト (以下、MOP)が企画・運営を担い、宮崎大学国際人材プロジェクトの支援により実現した。

1時間のオンライン交流会ではMOPの学生のファシリテーター進行のもと、自己紹介から始まり、他己紹介(その場にいる特定の人物を、他の方々に紹介するという紹介方法)を交え、参加者同士の和やかな雰囲気がつくられた。

その後、神経衰弱ゲームで、参加者が撮影した宮崎や自国の文化を紹介した写真を見ながら語り合い、ユニークな回答などで参加者の笑い声がつきない交流会となった。

交流会終了後にアンケートを行ったところ、「ゲームに参加して、宮崎に2年間住んでいるが、まだ知らない事が沢山あるとわかった、勉強になった」「交流会では伝え方を工夫して言葉にする方法を学べた」「地元宮崎の魅力をいろんな地域の人に楽しく伝えることが出来て嬉しかった」などの感想が寄せられた。

本交流会は、リモート開催ではあったが、宮崎で共に生きる学生と外国人材の繋がりをつくることができ、これを機に、本学における更なる国際人材の交流や相互理解が期待される。本学では今後も、宮崎大学国際人材プロジェクトとして、本学が有するリソースを最大限に活用し、県内関係機関と連携協力の下、出口を見据えた本県独自の国際人材の育成・定着に向けた取組みを進めていくこととしている。

2. 宮崎県立宮崎病院が宮崎大学医学部附属病院に特別功労賞を授与

令和4年1月11日（火）、宮崎大学医学部附属病院は、宮崎県立宮崎病院より特別功労賞を授与された。

本受賞は、宮崎病院開設100周年を迎えるにあたり、本学附属病院の長年にわたる宮崎病院への多方面からの支援や貢献が認められたものである。

本学附属病院は、宮崎大学のスローガン「世界を視野に地域から始めよう」をもとに、

附属病院の理念として、「診療、教育、研究を通して社会に貢献する。」ことを掲げている。

宮崎県唯一の大学病院・特定機能病院として、県民の医療の最後の砦となるべく努め、今後とも県内の医療機関と連携し、地域医療を主導していく。



3. 女子トイレに生理用品を設置 ～生理にともなう様々な負担に悩む学生を支援～

宮崎大学では、生理用品を必要な時に自由に使えるよう女子トイレに設置する取り組みを開始した。

令和4年1月17日から、清武キャンパスの一部女子トイレに生理用品ボックスを設置し、自由に使用できる環境を整備している。医学部医学科および看護学科の学生（男子を含む）を対象に実施したアンケート調査では、

99.7%が「女性トイレ内に生理用品が設置されていると便利だ」と回答しており、本取組がこれまでタブー視されていた「生理」についてオープンに話し合うきっかけになればと考えている。

設置したばかりだが、使用率は上々で学生からの評判もよく、全てのトイレに当たり前に必需品として置かれているトイレットペーパーと同様に生理用品が自然に配置されることを目指し、設置場所を増やすなど今後も取組を推進していく予定である。

本取組はSDGs Goal 1（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）、4（質の高い教育をみんなに）、8（働きがいも経済成長も）、そして5（ジェンダー平等を実現しよう）の達成に寄与するものでもある。

本学では、誰もが安心して学べる環境整備に取り組んでいく。



4. 大学発ベンチャー企業・MabGenesis 社がアニマルヘルス分野のグローバルリーダー： ベーリンガーインゲルハイム社（ドイツ）と共同研究開発契約を締結

宮崎大学発ベンチャー企業である MabGenesis 社は、ベーリンガーインゲルハイム社（ドイツ）とイヌ用新規モノクローナル抗体医薬品に関する共同研究開発契約を締結した。

MabGenesis 社は、これまで網羅性と機能性に優れた MOURA ライブラリーと効率的抗膜タンパク質抗体取得技術



IMPACT のプラットフォーム技術を活用し高品質な抗体医薬発見を進めてきた。

世界の動物用医薬品の研究開発をリードするベーリンガーインゲルハイム社とのパートナーシップにより、お互いの高度な専門知識や知見が補完され、いまだ治療方法がない、もしくは治療の選択肢が限られているような疾患に取り組む新しい方法が見出されるなど、動物の健康における大きな課題解決への貢献が期待される。

5. 医学部附属病院で“網膜色素変性に対する遺伝子治療”の医師主導治験を実施

令和4年1月17日、医学部附属病院において、網膜色素変性（以下、色変と略）に対する遺伝子治療の医師主導治験（治験調整医師：医学部医学科眼科学分野 池田康博 教授）における被験者への投与が、令和4年1月17日に実施された。

色変は、網膜に存在する光を感じる細胞（視細胞）が徐々に失われていく遺伝性の病気で、約5千人に1人の頻度で見られ、

失明に至る可能性もあるが、現状は有効な治療法がなく、厚生労働省から難病と指定されており、患者は失明の不安を抱えて日常生活を送っている。

今回の医師主導治験で安全性と有効性が確認され、治療薬としての開発に繋がれば、患者の失明防止に向けた大きな一歩になると考えられる。

